

世界のすきまに新たな世界を

株主・投資家の皆様へ

第96期 報告書

第96期業績のご報告

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

毎日の水道水

も、

ひそかに支える。

 四国化成

INDEX



ごあいさつ	2
連結決算の概要	3
セグメント別業績の概要	5
連結決算の状況	7
経営方針	9
トピックス	11
会社概要	15
株式情報	17

株主・投資家の皆様へ



株主・投資家の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

ここに、第96期(平成27年4月1日から平成28年3月31日)における事業の概況と業績につきまして、ご報告申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、堅調な企業収益を背景に雇用・所得環境や設備投資が緩やかに改善する一方で、個人消費の低迷や新興国経済の減速による鉱工業生産・輸出の伸び悩みに加え、年初以降急速に円高が進むなど、先行き不透明感が高まりつつあります。

一方、世界経済は、米国は緩やかな拡大が続いているものの、資源価格の下落や中国経済の停滞が新興国経済全体に波及するなど、総じて減速した状態が続いています。

このような状況下、当連結会計年度の売上高は、化学品事業、建材事業ともに前年の実績を上回り、前連結会計年度比2.2%増収の502億46百万円と3期連続で過去最高を更新しました。利益面では円安による収益性改善や建材事業の価格改定効果などにより、

営業利益は前連結会計年度比30.6%増益の79億73百万円、経常利益は同25.5%増益の81億97百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は同11.3%増益の48億54百万円と、いずれも過去最高を更新しました。

当社グループでは、昨年度で終了した中期経営計画「SSS over the 500」に引き続き、本年度を初年度とする新しい3カ年計画「中期経営計画2019」をスタートさせております。本計画では、既存事業周辺分野からの「新規コア製品」の確立を最重点項目として掲げ、今後の持続的成長を目指しております。また、引き続き、「コア・コンピタンスに基軸を置いた事業運営」、「イノベーション重視の攻撃的なグローバル・ニッチ企業志向」を経営基本方針に、グループを挙げて企業価値向上に取り組んでまいります。

株主・投資家の皆様には、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年6月

当期サマリー

■ 連結損益計算書

- 売上高は、前連結会計年度比で化学品事業・建材事業ともに増収となり、3期連続で過去最高を更新しました。
 - 化学品事業は、二酸化炭素やシアヌル酸誘導品が国内外ともに好調でした。建材事業は、エクステリアの景観分野が好調に推移しました。
- 営業利益は、前連結会計年度比30.6%増益の79億73百万円で、過去最高を更新しました。
 - 化学品事業は、円安や原材料価格の下落の影響などにより収益性が向上しました。建材事業は、昨年4月に実施した価格改定により収益性が改善しました。
- 経常利益は、前連結会計年度比25.5%増益の81億97百万円で、3期連続で過去最高を更新しました。
- 親会社株主に帰属する当期純利益は、前連結会計年度比11.3%増益の48億54百万円で、4期連続で過去最高を更新しました。

以上の通り、前連結会計年度比増収増益となり、売上高から親会社株主に帰属する当期純利益までの全てにおいて過去最高を更新しました。

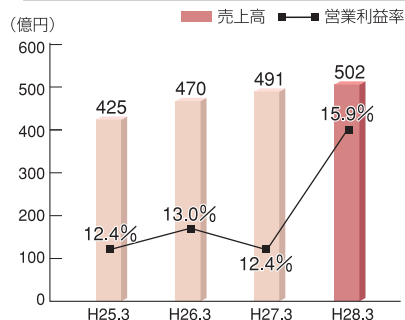
■ 連結貸借対照表

- 保有株式の時価下落により、投資有価証券が前連結会計年度末比16億40百万円減少しましたが、現金及び預金が同41億31百万円増加したことなどから、総資産は同32億47百万円増加し、775億10百万円になりました。
- 自己資本比率は、前連結会計年度末の69.3%から70.0%に上昇しました。

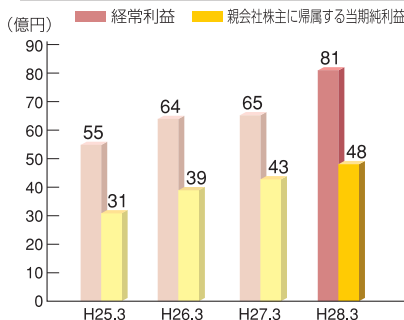
■ 連結キャッシュ・フロー計算書

- 現金及び現金同等物は、前連結会計年度末比41億31百万円増加の200億75百万円でした。
 - 主な収入項目は、税金等調整前当期純利益73億85百万円、減価償却費17億47百万円でした。
 - 主な支出項目は、法人税等の支払23億6百万円、有形固定資産の取得18億86百万円、配当金の支払8億76百万円でした。

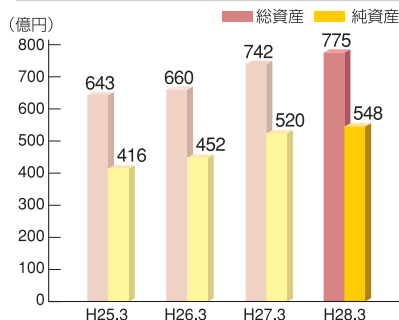
売上高及び営業利益率



経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益



総資産及び純資産





連結財務指標の推移

(単位：百万円)

	平成25年3月期	平成26年3月期	平成27年3月期	平成28年3月期	対前期増減率 (%)
売上高	42,502	47,044	49,153	50,246	2.2
営業利益	5,262	6,113	6,106	7,973	30.6
経常利益	5,523	6,443	6,531	8,197	25.5
親会社株主に帰属する当期純利益	3,199	3,924	4,361	4,854	11.3
1株当たり当期純利益(円)*	54.74	67.15	74.62	83.08	11.3
総資産額	64,304	66,042	74,262	77,510	4.4
純資産額	41,694	45,241	52,021	54,855	5.4
自己資本比率(%)	64.5	68.1	69.3	70.0	0.7 ポイント
1株当たり純資産額(円)	709.47	769.85	881.06	928.28	5.4

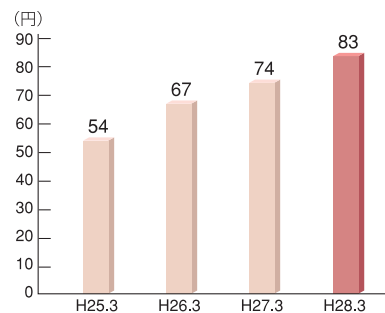
1) 平成25年3月期は、円高修正、株価上昇など、景気回復への期待感が高まるなか、増収増益となりました。

2) 平成26年3月期は、経済対策により景気が回復基調にあり、増収増益となりました。

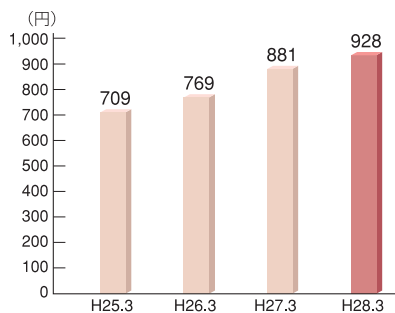
3) 平成27年3月期は、円安の加速、原油価格の急落により、増収増益となりました。

*1株当たり当期純利益は、自己株式を控除した期中平均発行済株式数により算出しています。

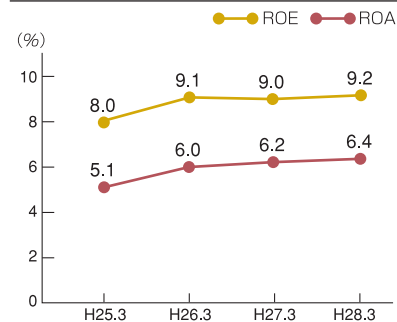
1株当たり当期純利益

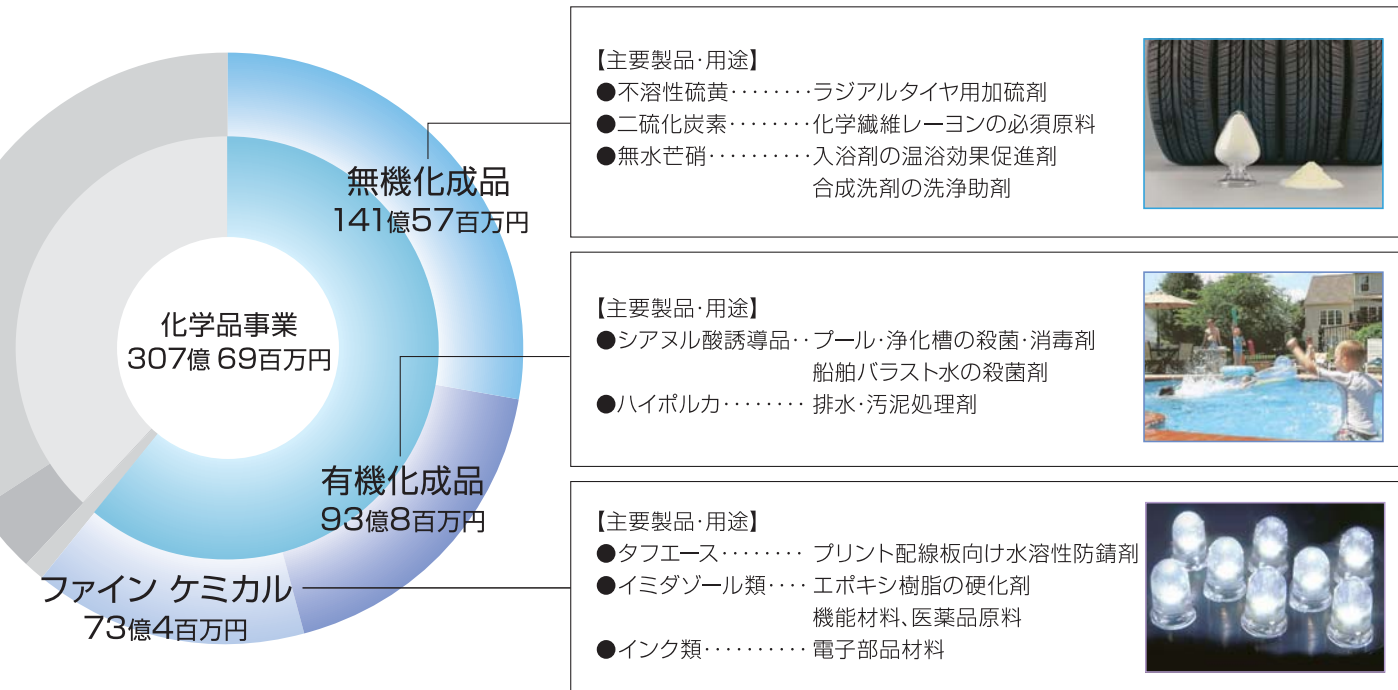


1株当たり純資産額



自己資本当期純利益率 (ROE) 総資産当期純利益率 (ROA)



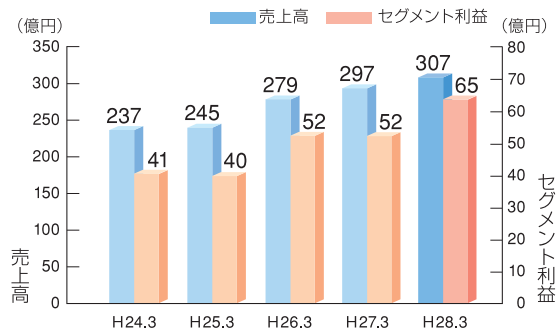


化学品事業

ラジアルタイヤ用加硫剤の不溶性硫黄は円安や原材料価格の下落の影響により収益性が向上しました。プール用殺菌消毒剤のシアンル酸誘導品は国内外ともに販売が好調でした。プリント配線板向けの水溶性防錆剤タフエースは国内販売が伸び悩んだものの輸出が好調に推移しました。エポキシ樹脂硬化剤を主用途とするイミダゾール類は、収益性が低下しました。

この結果、化学品事業の売上高は307億69百万円前連結会計年度比3.4%の増収、セグメント利益は65億80百万円前連結会計年度比26.1%の増益となりました。

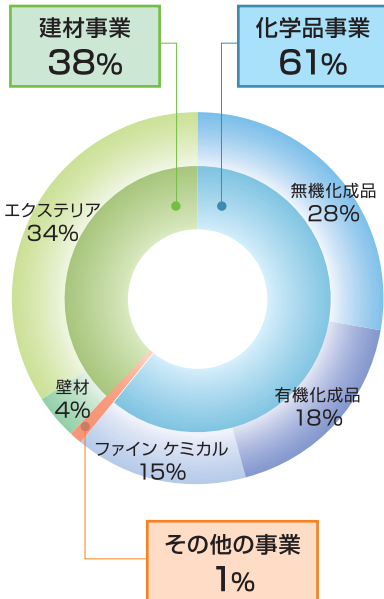
業績推移





連結売上高と構成比

合計 502億 46百万円



【主要製品】

- 住宅エクステリア………
門扉、フェンス
カーポート
アコーディオン門扉
アルミシステム塀



●景観エクステリア………

- 大型門扉、大型フェンス
通路用シェルター
自転車置場
ゴミ集積庫、屋上緑化等



【主要製品】

- 内装材、外装材、舗装材

エクステリア
167億 14百万円

建材事業
187億 92百万円

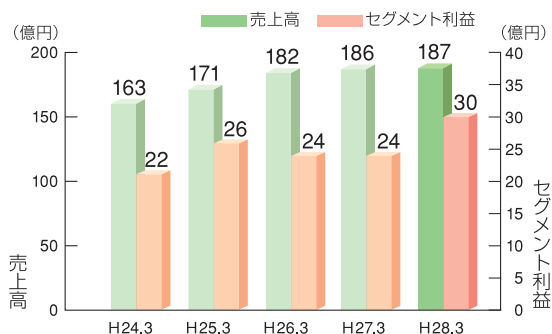
壁材
20億 77百万円

建材事業

エクステリアは、住宅分野が伸び悩んだものの、景観分野が好調に推移したほか、昨年4月に実施した価格改定により収益性が改善しました。壁材は、湿式壁材市場の停滞により低調に推移しました。

この結果、建材事業の売上高は187億92百万円前連結会計年度比0.8%の増収、セグメント利益は30億64百万円前連結会計年度比24.3%の増益となりました。

■ 業績推移



■連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科 目	平成27年3月期 (平成27年3月31日現在)	平成28年3月期 (平成28年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	39,901	44,251
現金及び預金	15,943	20,075
受取手形及び売掛金	14,701	14,867
商品及び製品	5,829	5,805
仕掛品	76	68
原材料及び貯蔵品	2,560	2,542
繰延税金資産	621	712
その他	168	179
固定資産	34,360	33,258
有形固定資産	17,762	18,209
建物及び構築物	4,704	5,226
機械装置及び運搬具	3,357	2,661
土地	8,790	8,843
建設仮勘定	413	950
その他	496	526
無形固定資産	335	326
投資その他の資産	16,263	14,723
投資有価証券	15,346	13,706
繰延税金資産	110	270
その他	805	746
資産合計	74,262	77,510

科 目	平成27年3月期 (平成27年3月31日現在)	平成28年3月期 (平成28年3月31日現在)
(負債の部)		
流動負債	16,516	16,415
支払手形及び買掛金	8,015	7,772
短期借入金	1,990	1,930
1年内返済予定の長期借入金	1,198	139
未払法人税等	1,222	1,729
その他	4,090	4,844
固定負債	5,724	6,239
長期借入金	517	1,622
再評価に係る繰延税金負債	1,404	1,349
退職給付に係る負債	2,139	2,204
その他	1,662	1,062
負債合計	22,240	22,655
(純資産の部)		
株主資本	45,809	49,779
資本金	6,867	6,867
資本剰余金	5,741	5,741
利益剰余金	33,501	37,479
自己株式	△301	△308
その他の包括利益累計額	5,678	4,460
非支配株主持分	533	614
純資産合計	52,021	54,855
負債・純資産合計	74,262	77,510



■連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	平成27年3月期	平成28年3月期
	（平成26年4月1日から 平成27年3月31日まで）	（平成27年4月1日から 平成28年3月31日まで）
売上高	49,153	50,246
売上原価	31,296	29,902
売上総利益	17,856	20,344
販売費及び一般管理費	11,750	12,371
営業利益	6,106	7,973
営業外収益	588	500
営業外費用	163	276
経常利益	6,531	8,197
特別利益	217	17
特別損失	75	829
税金等調整前当期純利益	6,673	7,385
法人税等	2,291	2,449
当期純利益	4,382	4,936
非支配株主に帰属する当期純利益	21	81
親会社株主に帰属する当期純利益	4,361	4,854

■連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	平成27年3月期	平成28年3月期
	（平成26年4月1日から 平成27年3月31日まで）	（平成27年4月1日から 平成28年3月31日まで）
現金及び現金同等物の期首残高	10,627	15,943
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,486	7,532
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,536	△2,286
財務活動によるキャッシュ・フロー	△971	△967
現金及び現金同等物に係る換算差額	338	△146
現金及び現金同等物の増加額	5,316	4,131
現金及び現金同等物の期末残高	15,943	20,075

■連結株主資本等変動計算書（要旨）

（平成27年4月1日から平成28年3月31日まで）

（単位：百万円）

	株主資本合計	その他の 包括利益 累計額合計	非支配株主持分	純資産合計
当期首残高	45,809	5,678	533	52,021
当期変動額				
剰余金の配当	△876			△876
親会社株主に帰属する当期純利益	4,854			4,854
自己株式の取得	△7			△7
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）		△1,217	80	△1,137
当期変動額合計	3,970	△1,217	80	2,833
当期末残高	49,779	4,460	614	54,855

経営基本方針

当社グループは、企業理念「独創力」のもと、「豊かで輝く企業、小粒でも世界に通用する企業集団となる」ことを企業ビジョンに掲げ、独創的な技術に主眼を置いたグローバルな事業活動を展開し、社会に貢献する企業であり続けることを目指しています。

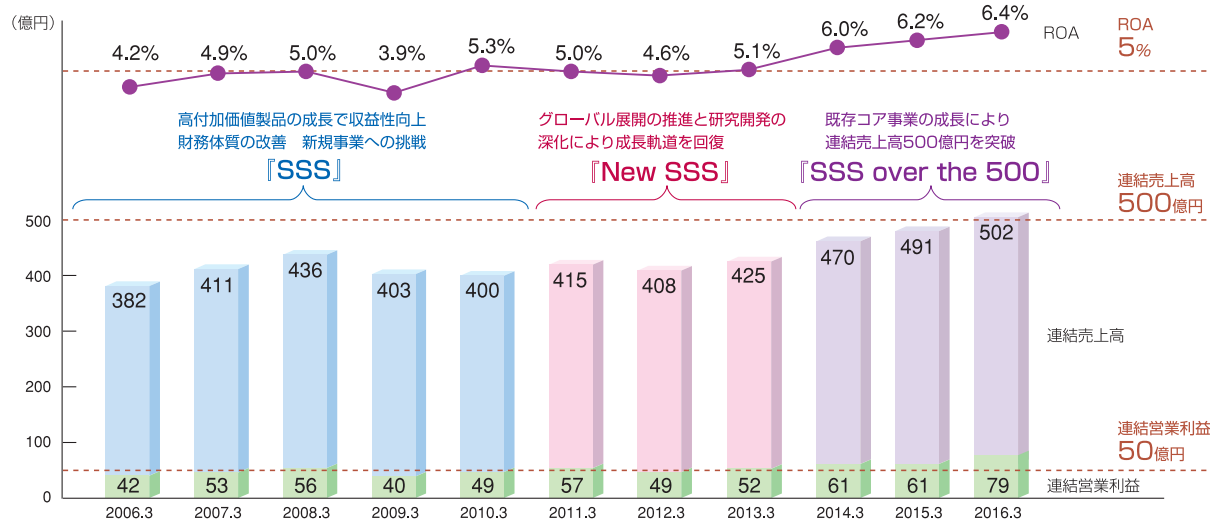
経営の基本方針としては、「コア・コンピタンスに基軸を置いた事業運営」と「イノベーション重視の攻撃的なグローバル・ニッチ企業志向」の2つを定め、また全ての社員が日々の業務を行ううえで常に念頭に置いておくべき心構えとして「スピード&ストレッチ」、「アグレッシブ&チャレンジング」、「現場重視」の3つの社員行動指針を定めています。

中期経営計画「SSS over the 500」について

当社グループでは、2016年3月期を最終年度とする3年間の中期経営計画「SSS over the 500」において、利益水準の維持向上を図りつつ連結売上高500億円の突破を目指してまいりました。期間中、中国をはじめとする新興国経済の減速等、事業環境の変化はあったものの、不溶性硫黄、二硫化炭素、エクステリアなどの各事業が順調に伸長し、計数目標として掲げていた連結売上高500億円を達成いたしました。また、売上高拡大だけでなく、高度な生産技術力や研究開発力を背景に、継続的な利益水準の向上を図っております。

当社では、2006年3月期より「SSS」「New SSS」、そして「SSS over the 500」という3つのステップで中期経営計画SSS(Shikoku Survival Strategy)に取り組んでまいりましたが、今回の連結売上高500億円達成をもって、SSSで当初掲げた計数目標(連結売上高500億円、連結営業利益50億円、ROA5%)の全てを達成いたしました。

業績の推移(連結)



「中期経営計画2019」について

当社グループでは、2017年3月期を初年度とする新しい3カ年計画「中期経営計画2019」を策定し、取り組みを開始しております。「中期経営計画2019」では、既存事業周辺分野からの新規事業創出に更に注力すべきであるとの認識のもと、最も重視する取り組みとして「新規コア製品(当該中期経営計画期間中に一定規模の収益を見込める新製品)」の確立に目処をつけることを掲げております。

事業ドメインの見直しや生産技術の更なる向上等、既存各事業のリノベーションを起点に、化学品では高機能・高品質な機能材料やタフエースに続くプリント配線板用薬剤「GliCAP」等の電子化学材料への注力、また、建材事業では強みとする市場ニーズ先取り型の独創的商品に加え、汎用グレード品の強化による事業規模の拡大にも取り組みます。

これら「新規コア製品」の確立に向け、「中期経営計画2019」は、積極的な経営資源の投入にも十分配慮しつつ、将来にわたる事業ポートフォリオの書き換えによる持続的な成長を目指してまいります。

新規コア製品候補のご紹介(一例)

ネオクロール マリーン



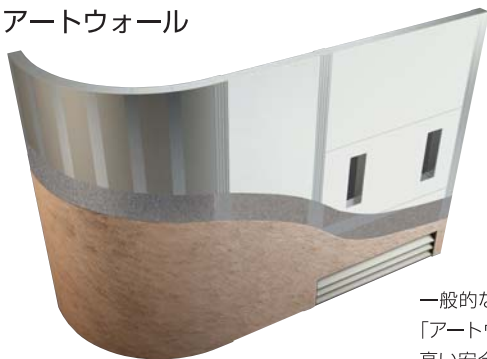
船舶のバランスを保つために必要なバラスト水。そのバラスト水による生態系の破壊を防ぐ殺菌処理で、「ネオクロール マリーン」は活躍しています。

機能材料製品群



様々な樹脂に添加することで耐熱性や透明性など、樹脂の機能を高める材料。高い有機合成技術を駆使して開発した新規物質で、最先端の電気・電子材料の高機能化に貢献します。

アートウォール



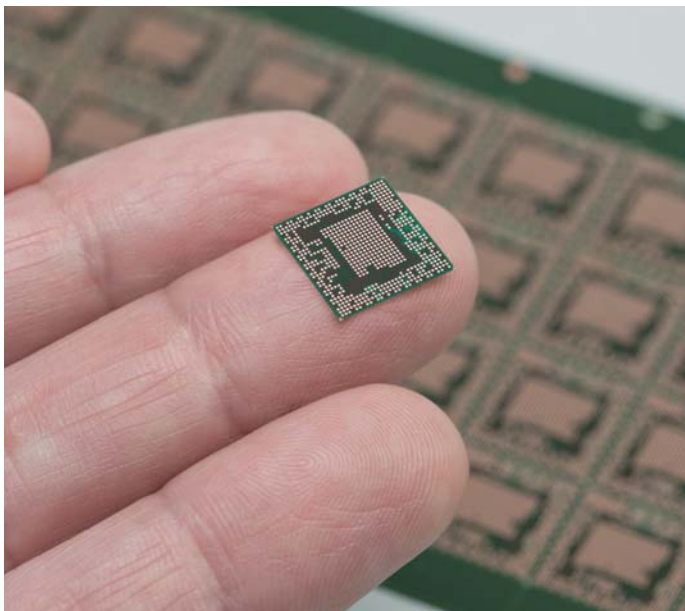
一般的なフェンスと同様の簡単施工で意匠性に優れた本格的な塀が作れる、アルミシステム塀「アートウォール」。コンクリートブロック塀の約 1/20*の軽量構造で、万一の倒壊時でも、より高い安全性を確保します。 *数値は 60 mm厚仕様のパネルを使用した「アートウォール seed」の場合。

次世代のプリント配線板用薬剤「GliCAP®(グリキャップ)」

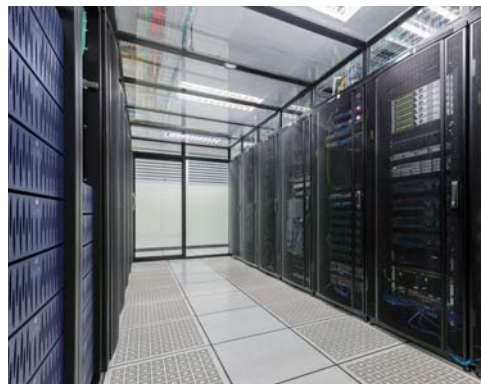
スマートフォンをはじめとする電子機器や、急速にエレクトロニクス化が進む自動車には、膨大な数の半導体や電子部品が使われています。それらを電気的につなぎ合わせて製品化する上で欠かせないのがプリント配線板です。そこには当社の製品が大きく貢献しています。

当社は今般、半導体やネットワークサーバーなどに使用される高付加価値プリント配線板の銅回路と、樹脂の密着性を向上させる薬剤「GliCAP」を開発いたしました。

高付加価値プリント配線板は、数十層にもものぼる銅回路が積層され立体的につながっていますが、層間の電気絶縁性を保持するために、液状やシート状の樹脂を張り合わせる工程があります。銅回路と樹脂の密着性を高める手法として、従来は薬剤で銅の表面を粗化する方法が一般的で、当社の粗化薬剤「Glibrite(グリブライト)」も、着実に実績を伸ばしています。しかしながら、電子部品の小型化・薄型化に伴い、半導体用プリント配線板の銅回路幅は10ミクロン以下に微細化が進み、銅回路表面を粗化することが難しくなってきました。また、サーバー用プリント配線板はIoT*時代の到来とともに、膨大なデータを高速で伝送する必要がありますが、高周波信号は導体の表面に近いところを密集して流れるため(表皮効果)、表面が平滑な銅回路が求められています。



回路の微細化が進む半導体用プリント配線板(パッケージ基板)



高周波対応基板が使用されるサーバー (イメージ)

当社が開発した密着性向上剤「GliCAP」は、銅表面を粗化することなく、長年培った高度な有機合成技術から生まれた新たな有機物で銅と樹脂の密着性を向上させる次世代の技術です。従って、「銅」をキーワードにプリント配線板以外の市場でも潜在需要が期待できます。

水溶性防錆剤「タフエース」で圧倒的な世界トップシェアを誇る当社は、「Glibrite」や「GliCAP」などプリント配線板周辺薬剤を新たに上市し、エレクトロニクス技術の発展にますます貢献してまいります。

※IoT…[Internet of Things]様々な「物」がインターネットに接続され、情報交換することにより相互に制御する仕組み。

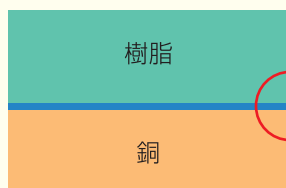
「Glibrite」と「GliCAP」の密着方法の違い

粗化薬剤「Glibrite」処理断面図

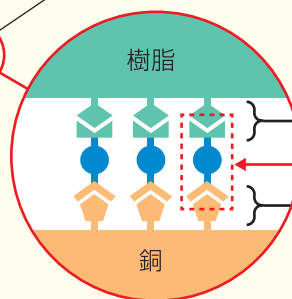


薬剤で粗化された銅回路表面に樹脂が潜り込みアンカー効果で物理的に密着性向上。

密着性向上剤「GliCAP」処理断面図



銅回路表面を粗化することなく平滑のまま、分子間の結合で、化学的に密着性向上。



樹脂と強く結合

密着性向上剤「GliCAP」

銅と強く結合

オープン外構を美しく演出する「エクサク」を新発売

住まいの顔となるファサード*デザインは、敷地の狭小化もあり、クローズデザインのほかに、開放的なオープンデザインのニーズが高まっています。門柱や枕木に植栽などをあしらうシンプルで個性的な演出にお応えするため、2016年新商品では、ファサード空間をトータルにデザインする新発想の製品「エクサク」を発売しました。

縦基調の支柱デザインが特長で、「ゲート」、「スクリーンパネル」、「ポール」および「門柱」などのユニットを自由に組み合わせることで住まいの顔を美しく彩ります。また、さりげなく敷地境界を表し、部分的に視線を遮る工夫など、オープン外構の開放感と安心感を両立した様々なプランが可能です。さらに、当社独自のアルミシステム塀「アートウォール」と組み合わせればプランの幅が一層広がります。

いつもの場所を価値ある空間に。

当社はこれからも一歩先を行く商品を提供してまいります。

※ファサード…道路に面する建物の正面のこと。フランス語に由来。





■「エクサク」と「アートウォール」の組み合わせプラン例



当社建材ホームページでは、
2016年新商品を
楽しい動画でご紹介しています。
ぜひご覧下さい。

四国化成 建材

検索

<http://kenzai.shikoku.co.jp/new2016/>

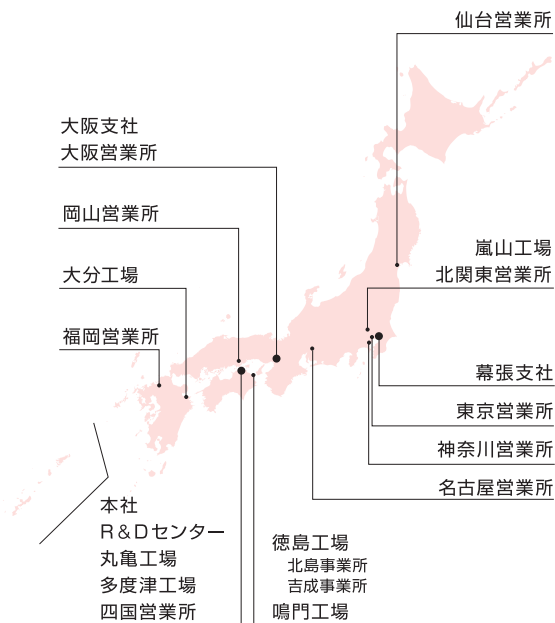
会社概要

会社設立	昭和22年10月10日
上場	東京証券取引所 第一部
資本金	68億67百万円
グループ従業員数 (平成28年3月31日現在)	1,056名

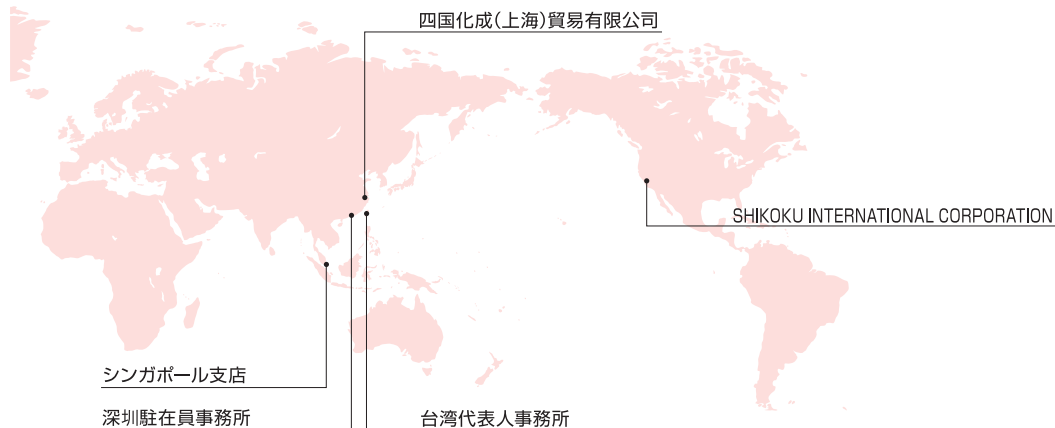


本社

国内拠点



海外拠点





役員

取締役相談役	山下	矩仁彦
代表取締役社長兼 C.E.O.	玉城	邦男
代表取締役副社長執行役員	田中	直人
代表取締役副社長執行役員	富田	俊彦
取締役専務執行役員	吉岡	隆
取締役専務執行役員	畑	元
取締役常務執行役員	真鍋	志朗
取締役執行役員	渡邊	充範
取締役執行役員	児玉	啓樹
取締役(社外取締役)	石村	博博
取締役(社外取締役)	渋谷	博博
常勤監査役	松下	純
常勤監査役	直井	工
監査役(社外監査役)	井出	義男
監査役(社外監査役)	籠池	信宏
執行役員	安藤	正泰
執行役員	高木	仁史
執行役員	小野	昭誠
執行役員	濱崎	誠
執行役員	岸	孝昭
執行役員	井出	浩孝
執行役員	平尾	浩彦
執行役員	片山	和彦

グループ各社

連結子会社 10社	化学 建材 その他
■ SHIKOKU INTERNATIONAL CORPORATION	資本金 700千ドル 持株比率 100%
■ 日本硫炭工業株式会社	資本金 400百万円 持株比率 73.7%
■ シコク環境ビジネス株式会社	資本金 20百万円 持株比率 72.5%
■ シコク分析センター株式会社	資本金 10百万円 持株比率 80%
■ シコク興産株式会社	資本金 90百万円 持株比率 100%
■ シコク景材株式会社	資本金 98百万円 持株比率 100%
■ シコク景材関東株式会社	資本金 50百万円 持株比率 100%
■ シコク・システム工房株式会社	資本金 50百万円 持株比率 100%
■ シコク・フーズ商事株式会社	資本金 20百万円 持株比率 100%
■ シコク・フーズ保険サービス株式会社	資本金 5百万円 持株比率 100%

非連結子会社 1社

■ 四国化成(上海)貿易有限公司

株式の状況

平成28年3月31日現在

発行可能株式総数	235,850,000株
発行済株式総数	58,948,063株
株主数	4,023名

株主の状況 (上位10名)

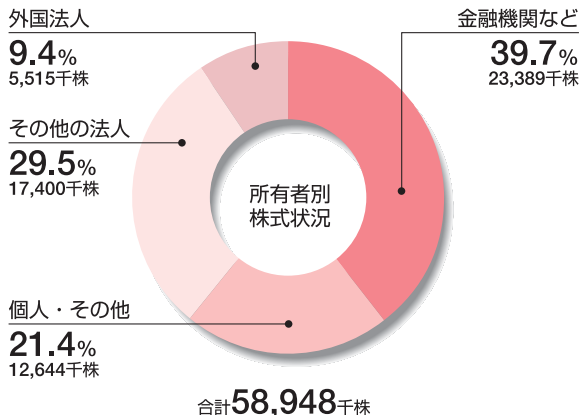
平成28年3月31日現在

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日清紡ホールディングス株式会社	5,580	9.55
シコク共栄会	4,193	7.18
日本生命保険相互会社	3,295	5.64
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (退職給付信託口・(株)百十四銀行口)	2,640	4.52
株式会社香川銀行	2,500	4.28
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	2,030	3.47
株式会社四国銀行	1,750	2.99
株式会社伊予銀行	1,500	2.57
株式会社中国銀行	1,500	2.57
東京海上日動火災保険株式会社	1,414	2.42

- (注) ●持株比率は自己株式を控除して計算しております。
 ●日本マスタートラスト信託銀行株式会社(退職給付信託口・株式会社百十四銀行口)の持株数には、株式会社百十四銀行が自己名義で保有している300千株を含めて記載しております。

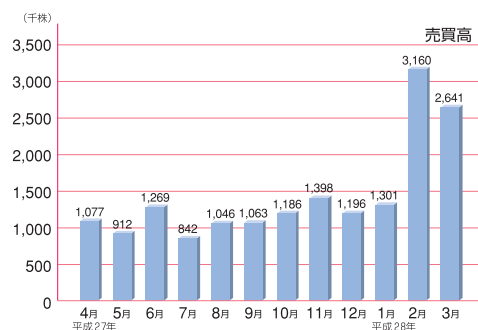
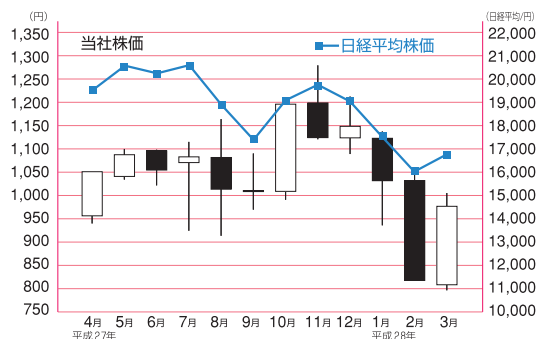
株式分布状況

平成28年3月31日現在



株価及び売買高の推移

東京証券取引所



1株当たり株主配当金

当期 **16円** (年間) *1.0円増配
 来期 **17円** (年間) 予定

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要政策のひとつと位置付けています。中長期の視点から適正な利益を確保しつつ、業績に裏付けられた成果配分を安定的に行うことを基本方針に、株式上市以来永年にわたる安定配当を継続してまいりました。

業績・財務状況等を総合的に勘案した結果、株主の皆様の日頃のご支援にお応えするため、平成28年3月期(第96期)の期末配当を従来から1.0円増配して8.5円(年間16円)といたしました。また、平成29年3月期の予想については中間配当も1.0円増配し、年間17円へ増配を予定しています。



株主優待制度について

期末現在における1,000株以上保有の株主様を対象に、地域の特産品(3,000円相当)を一律に贈呈いたします。平成28年6月には、地元香川の特産品である讃岐うどんをお届けいたしました。

株式に関するお知らせ

- 単元未満株式の買取・買増制度について
単元未満株式(1,000株に満たない株式)を買い取らせていただく「買取請求制度」と、不足分を買い増ししていただき単元株式(1,000株)にまとめる単元未満株式の「買増請求制度」をご利用いただけます。
- 特別口座の株式について
特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買ができません。証券会社等に口座を開設し、株式を振替えることで、円滑な株式の売買が可能です。

株式に関する手続きについて

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵便物送付先	お取引の証券会社等になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問い合わせ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く9:00~17:00)
各種手続きお取扱店 (住所変更、株主配当金 受取り方法の変更等)		みずほ証券 本店及び全国各支店 プラネットブース(みずほ銀行内の店舗) みずほ信託銀行 本店及び全国各支店(※) (※)トラストラウンジではお取扱いできませんのでご了承ください。
未払い配当金のお支払い	みずほ信託銀行(※)及び みずほ銀行の本店及び全国各支店 (みずほ証券では取次のみとなります。) (※)トラストラウンジではお取扱いできませんのでご了承ください。	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・各種手続きお取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続きを行っていただく必要があります。

株主メモ

- 事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月
- 基準日 定時株主総会 …………… 3月31日
剰余金の配当 期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
このほか必要ある場合は、あらかじめ公告して臨時に基準日を定めます。
- 公告方法
当社のホームページに電子公告として掲載いたします。
<http://www.shikoku.co.jp/ir/denshi.html>
但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
- 上場取引所 東京証券取引所
- 株主様窓口
四国化成工業株式会社 総務部
〒763-8504
香川県丸亀市土器町東八丁目537番地1
TEL.0877-21-4111



水道管内部の防錆にも貢献『キュアゾール』

地中に埋設されている水道管。現在の主流であるダクタイル鉄管は、埋設してから60年以上の耐久性・強靭性を求められます。そのために大切なのは、鉄の防錆。当社の『キュアゾール』は、鉄管内面を塗装するエポキシ樹脂粉体塗料の硬化剤として、鉄管を錆から守るのはもちろん、水道水への有害物質の溶出量や臭いなど厳しい技術基準をクリアし、広く塗料メーカーに採用されています。

私たちは化学のチカラで、暮らしを支える水道水にも貢献しています。

